

# 外国人受け入れが国民医療費に 及ぼす影響についての考察

慶応義塾大学経済学部 4年 石井太研究会 2期生

大川祥平

# 目次

1. 研究の背景と目的
2. 先行研究
3. データと方法
4. 結果と考察
5. 結論

# 1. 研究の背景と目的

- 背景

人口問題の一つの解決策として外国人受け入れの拡大

→受け入れによる社会保障などに対する長期的な影響が十分に議論されていない

- 目的

外国人受け入れの拡大が日本の国民医療費に与える影響について考察すること

## 2. 先行研究

- ・石井他（2013）「外国人受け入れが将来人口を通じて社会保障に及ぼす影響に関する人口学的研究」

→検証時点の年齢階級別医療費を固定、推計人口を置き換え、1人当たり医療費の変化を考察

→医療費の伸び率の推計が妥当性の観点から長期的な推計に向かないため

- ・厚生労働省（2018）「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」

→2040年までの国民医療費を推計している

→経済成長率や一人当たり医療費の伸び率に関して複数の仮定を置く

# 3. データと方法

- 人口のデータ

国立社会保障・人口問題研究所（2018）「日本の将来推計人口」条件付き推計に示されている外国人の移動仮定を設定した結果を使用

（出生死亡中位年間の純移入者数が0, 5, 10, 50万人となる仮定）

- 年齢階級別の一人当たり医療費のデータ

厚生労働省（2018）「平成30年度 国民医療費の概況」

の年齢階級別一人当たり医療費を参照

表3 年齢階級別1人当たり国民医療費（2018年・男女計）

年齢階級	人口一人当たり国民医療費（千円）
総数	351.8
0-14歳	162.1
15-44歳	124.6
45-64歳	289.0
65-69歳	466.3
70-74歳	666.0
75歳-	956.0

出所：厚生労働省（2018）「国民医療費の概況」に基づいて筆者作成

- ・ 一人当たり医療費の伸び率のデータ

一人当たり医療費の各年の伸び率を求めるためには厚生労働省（2018）のモデルを使用

$$\text{経済成長率} \times 1/3 + 1.9\% - 0.1\% = \text{医療費の単価の伸び率}$$

経済成長率には内閣府（2018）「中長期の経済財政に関するレポートと」厚生労働省（2016）「平成26年財政検証結果レポート」を参照している

表5 1人当たり医療費の指数（5年ごと）

年次	1人当たり医療費の指数
2018	1.00
2023	1.13
2028	1.27
2033	1.42
2038	1.58
2043	1.77
2048	1.97
2053	2.21
2058	2.46
2063	2.75
2068	3.07
2073	3.43
2078	3.83
2083	4.28
2088	4.78
2090	4.99

出所：筆者作成



- 方法

厚生労働省（2018）の推計を単純化したもの

→診療形態別の受療率を考慮せず

$$\text{国民医療費} = \text{年齢階級別人口} \times \text{年齢階級別一人当たり医療費} \times \text{一人当たり医療費の伸び率}$$

推計期間は2090年までとした

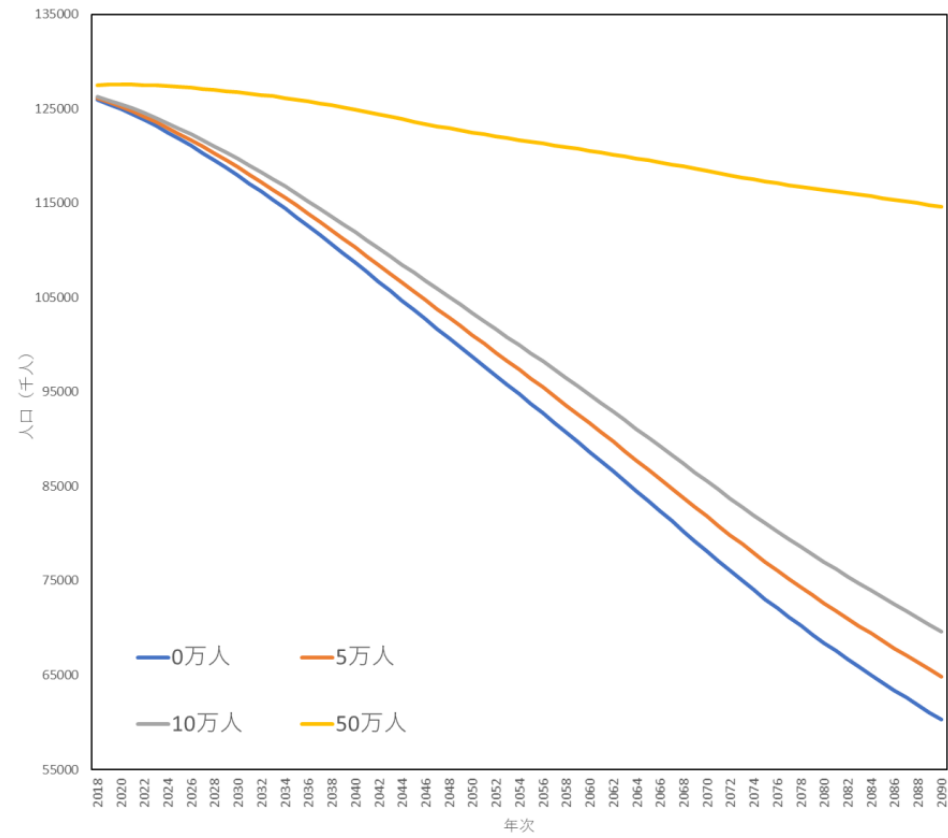
## 4. 結果と考察

- モデル検証

本推計方法の妥当性の検証のため厚生労働省（2018）の2040年時点での結果と本推計の2040年時点での結果を比較し、5.2%本推計の結果が低く示され、シミュレーションの基礎として問題はないと判断した

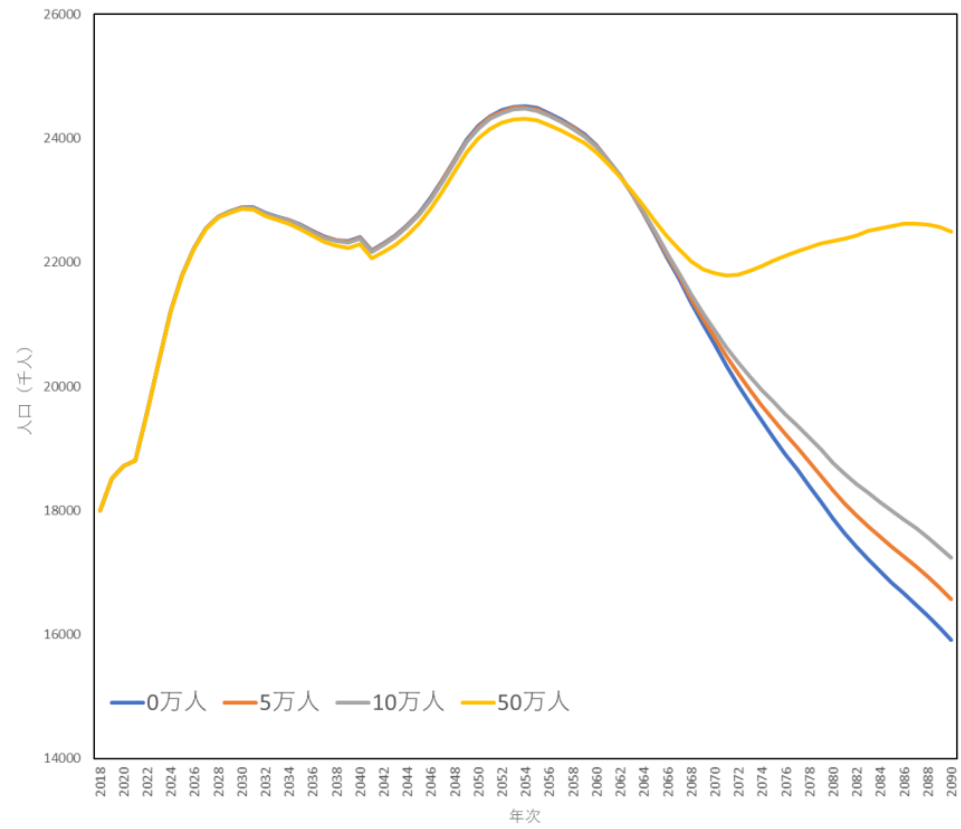
- 将来推計人口

今後も長期的な人口減少が示される、受け入れを増やすと減少は緩やかに外国人受け入れの影響が高齢人口に現れるのは2060年以降



出所：国立社会保障・人口問題研究所（2017）「日本の将来人口推計」

図1 外国人受け入れ人数別の将来推計人口



出所：国立社会保障・人口問題研究所（2018）「日本の将来人口推計」の条件付推計  
 図2 外国人受け入れ人数別の将来推計人口（75歳以上）

- ・ **国民医療費**

2045年以降に受け入れ人数ごとの結果に差が表れてくる

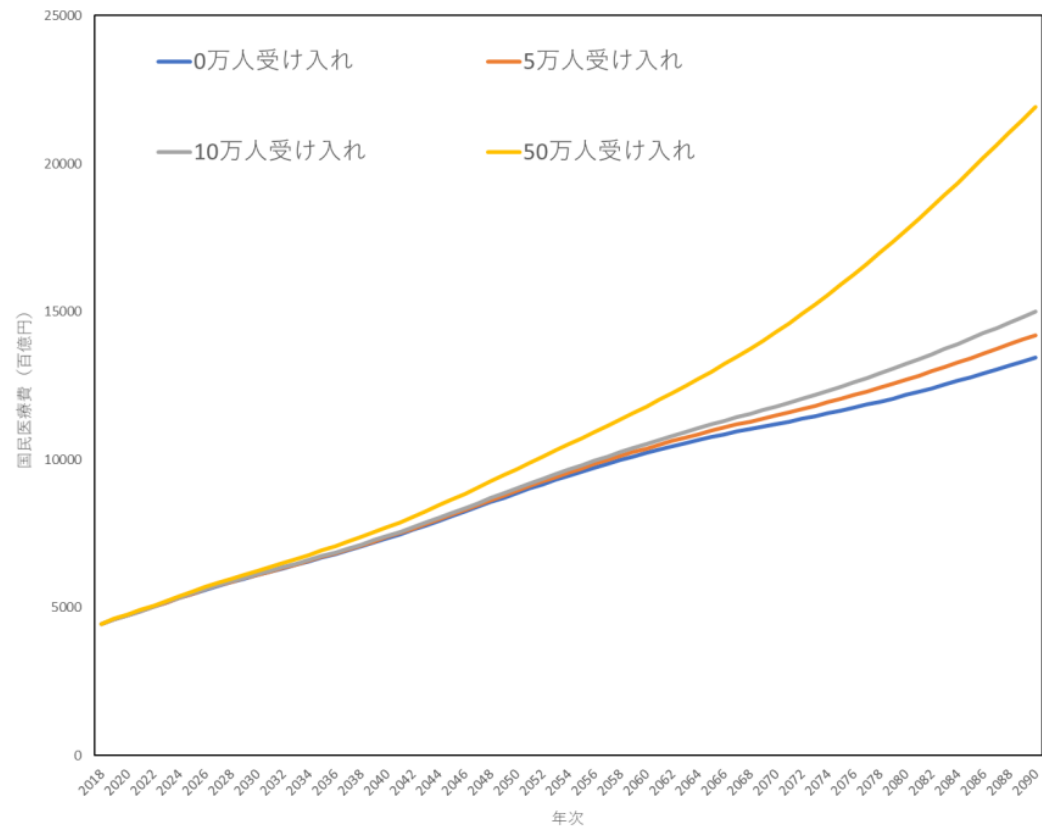
→受け入れ人数が大きくなるほど国民医療費が大きくなる

対前年伸び率も2057年以降大きく示されている

→受け入れ人数別の国民医療費の差は時間がたつにつれて広がる

- ・ 医療費の単価が伸びること
- ・ 高齢人口に影響が出るのに時間がかかること
- ・ 受け入れ人数の差の蓄積

などが要因として考えられる



出所：筆者作成

図3 外国人受け入れ人数別の国民医療費推計

- ・ 年齢階級別医療費

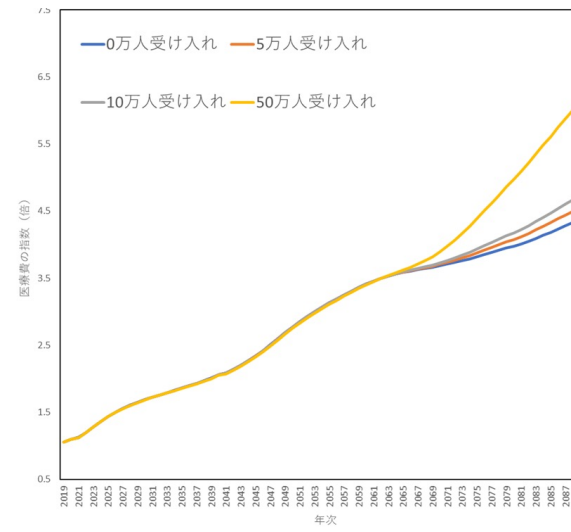
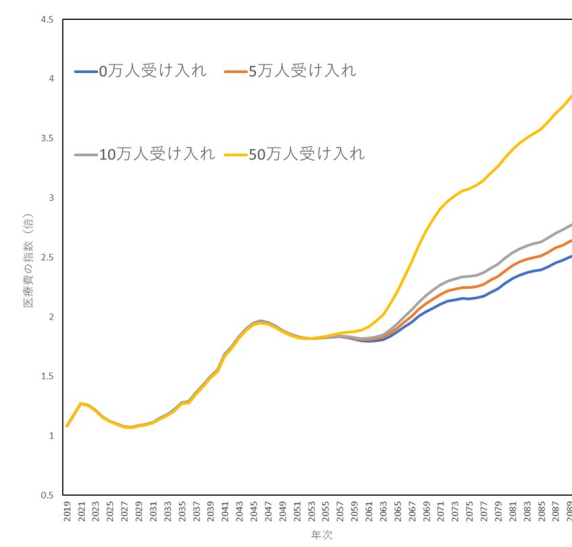
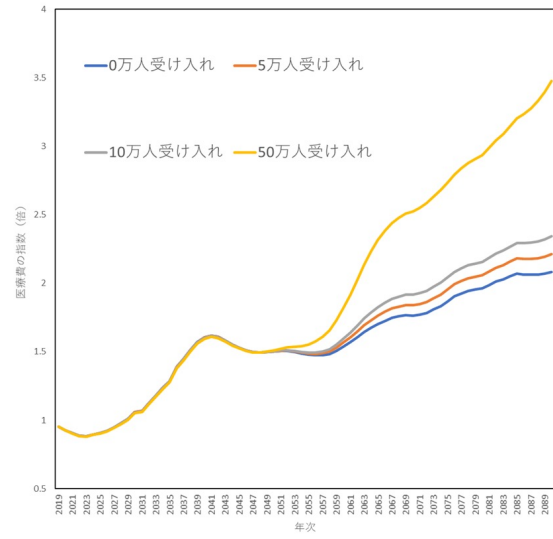
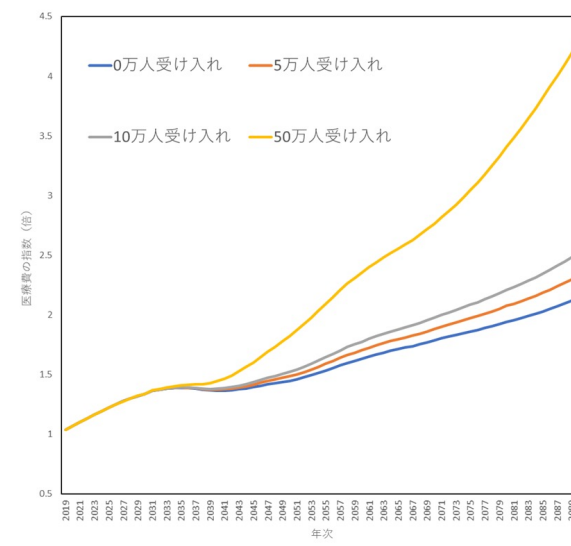
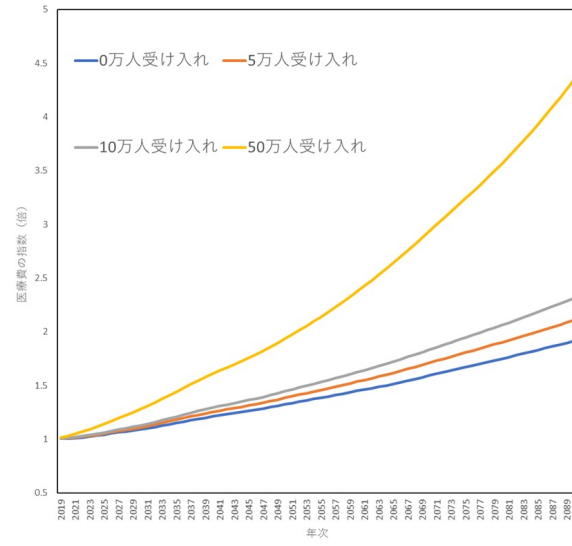
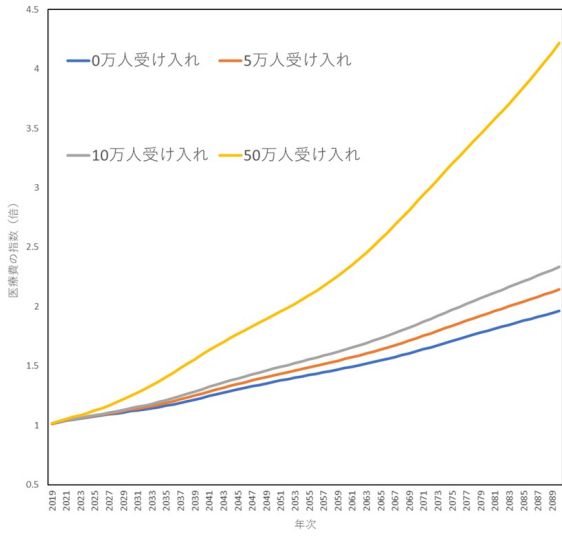
基準年2018を1としたときの各年の指数をあらわした

年齢階級別医療費に影響が出るのは高齢であればあるほど遅い

全体の医療費に影響がでているのも2045年以降

→受け入れた外国人が高齢者になることによって全体の医療費に大きなイン

パクトが与えられる





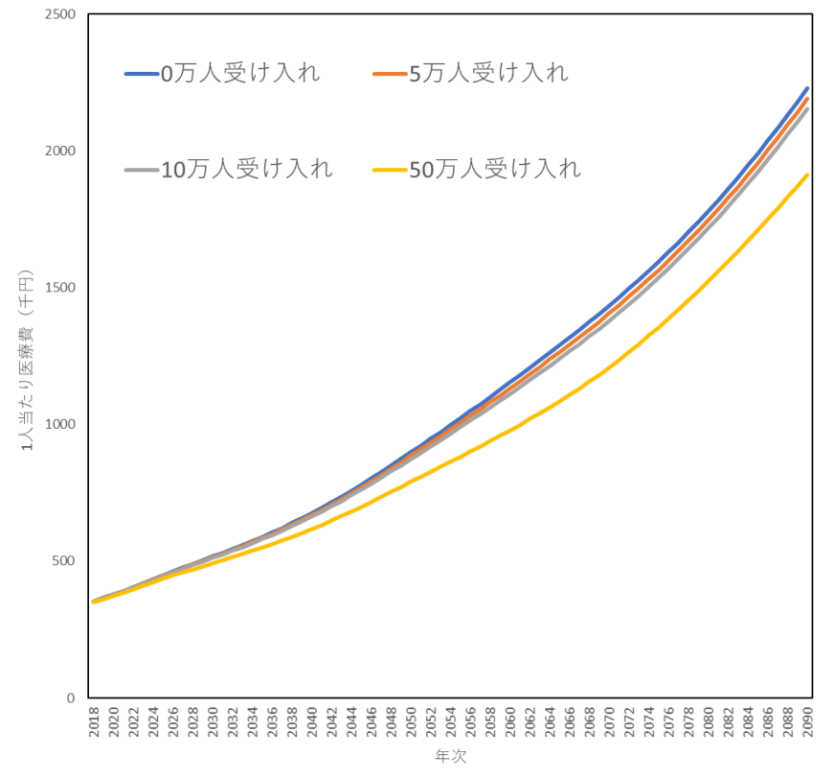
- ・ 全体の一人当たり医療費

すべての仮定で一人当たり医療費が将来的に上昇する

しかし、受け入れ人数が多いほどその上昇は緩やか

→受け入れ人口が若年でありその年齢階級の一人当たり医療費が全体より安い

ため



出所：筆者作成  
 図 11 全体の 1 人当たり医療費の推計

## 5. 結論

- 受け入れ人数の増加は国民医療費の増加をもたらす
- 受け入れ期間が長いほどその増加幅は大きい
- 一人当たり医療費に関しても、推計期間中は継続的に上昇、しかし、受け入れ人数が多いほどその上昇幅は小さかった
- 2040年以降、2060年以降に受け入れの影響が大きくみられたため、外国人受け入れの影響を考察するには長期の推計が大事であることが示された
- 医療費の伸び率に関する課題
- 給付と負担の両面からのネットでの分析や医療費のGDP比など総合的な視点の必要性
- 今後もこれらの課題を踏まえて議論をする必要あり

石井先生、並びにゼミ生の皆様には本研究を行うに  
あたって大変有益な助言を多くいただきました

本当にありがとうございました